



## たくさんの感動を残して、運動会終わる！

2学期の大きな行事である運動会が終わりました。酷暑といえるほどの残暑の中で始まった練習でしたが、子どもたちは本当によくがんばりました。今年は特に、本校のめざす子どもの姿である「①自分で考えて行動しようとする子 ②周りの人とより良くつながろうとする子 ③チャレンジしようとする子」が、運動会へ向かう取組の中でも見られるように進めてきました。このような「子どもが主役」の取組は、今までから続いている児童会による運動会のテーマ・応援キャラクターの決定や、色別パフォーマンスの取組だけでなく、団体演技やリレーなどの団体競技でも意識したことでした。学年に応じてではありますが、「先生のいう通りに動く」ではなく「自分達で演技・競技を作り上げていこう」と取り組んできた成果を見ていただけたと思っています。まだまだ理想から遠い部分もありますが、子どもたちの成長を感じていただいた場面もたくさんあったのではないのでしょうか。

保護者の皆様には、練習時から温かく見守っていただき、ありがとうございました。PTA 役員の皆様には準備や片付け、駐車場の誘導などにご尽力いただきました。閉会式後の片付けには、多くの方がお手伝いいただきました。改めまして、ご協力に感謝申し上げます。



### 今月の一言 (& 二言三言)

## 子どもはおとなの練習をしているのではなく 子どもの本番を生きている

奈良女子大の浜田寿美男さんは、「学ぶことは、『今ここ』を生きるために使うためか、自分の世界を広げるためなら意味がある。少し前の子どもは、自分に今ある力を使って人を喜ばせる機会があった。今は、子どもがすべきことは、将来いつ必要になるかわからないときのために力をつけることであり、手持ちの力を使うことではないと錯覚させられている。わたしは、『子どもはおとなの練習をしているのではなく、今、子どもの本番を生きているのだ』と大きな声で言いたい。」と言われます。



# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より

本年度も、布引小の子どもたちは、国語・算数とも「無答率（答えを書かずに空欄で提出した割合）」が全国や県に比べて低かったです。特に算数については、その傾向が強かったのですが、国語の長文で解答する問題では、無答率が高い結果でした。

## 国語

★問題文に出てくる【物語】（松居スーザン「オニグモじいさんの朝ごはん」による。）を読んで、心に残ったことをまとめるという問題です。

★まず、正答に行き着くには、【条件】を3つクリアしなければなりません。しかもよく見ると、条件の1つ目は、「心に残ったところ」「心に残った理由」という2つのことを入れるよう指示があることがわかります。ここで本校では、特に「理由」を書けていなくて不正解になった子が全体の1/4いました。問題文の【条件】を自分の中で整理して理解したり、「心に残ったところ（＝物語から抜き出すこと）」と「心に残った理由（＝自分の考えを書くこと）」を分けて考えたりする力をつけていく必要があることがわかります。ただ、この点は、県や全国の子どもたちも同じ傾向が見られました。

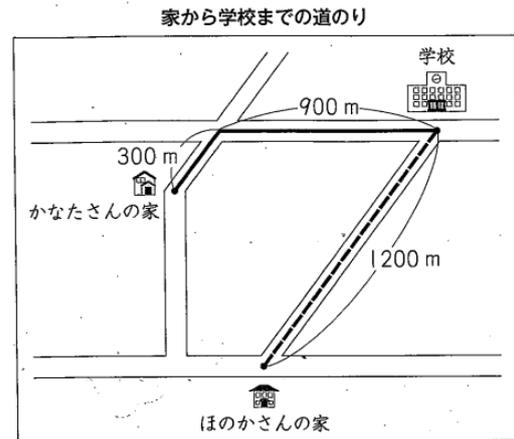
★この問題は、「問題文に出てくる人物の考えを読み取って書く」などではなく、「あなたならどう書くか」という出題の仕方が特徴的な問題になっています。つまり、解答の内容自体に正解はなく、子どもたち一人ひとりの感じ方を自分の言葉で解答できれば正解となる問題なのです。記述式の問題にしては、全国の正答率が高いのも、この特徴のためかもしれません。残念ながら、この問題で本校児童は、全国よりも10ポイント近く低い正答率になりました。上で述べたように、無答だった子も2割近くいました。「書くこと」への抵抗を減らし、自分の思いを持ち、それを自由に表現していきたいと思える学びに向かう力、さらにそれを相手に伝える言葉や文章にしていける表現力・語彙力を育む取組をさらに進めていきたいと思えます。

## 算数

★かなたさんとほのかさんの家から学校までの道のりとかかった時間から、歩く速さを比べる問題です。かなたさんは曲がり角があり、ほのかさんは直線ですが、2人とも道のりは1200mで同じ、しかし、かなたさんがほのかさんより短い時間で歩いているので、かなたさんが速い、というのが正答です。速さを計算する公式を使って分速を出して比べても正解です。

★この問題は、全国でも一番正答率が低く、7割の子が不正解となる「難問」でした。本校児童は、他の問題で全国に比べて高い正答率を示していたのにも関わらず、この問題では全国を下回りました。8割以上の子が「かなたさん」を選ぶところまでは正解できていながら、理由を過不足なく述べることができていなかった点から、国語と同様に「相手に伝わるように表現する力」に課題が残る結果でした。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

## 質問紙

質問紙調査は、子どもたちの学力を下支えする学習環境や生活状況などを分析し、学力との相関関係を調べるために実施されています。

布小の子どもたちは、子どもたちの生活を一番下から支える「朝食を毎日食べる」や「同じ時刻に起きる」などの生活習慣がしっかりしていることがわかりました。また、「自分にはよいところがある」は9割を超える子が肯定的回答をしていて、全国より10ポイント程度高い結果でした。自分に自信を持って毎日を送れている子が多いことは喜ばしいことです。さらに、「いじめは、どんな理由があってもいけない」の設問に、全員が肯定的回答をしていて、いじめストップの学校づくりが進んできたことがうかがえます。

しかし、以下の質問項目の結果については、やや心配な点がありました。「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達関係に満足している」は、全国より肯定的回答が少なかった設問です。子どもたちが「一人ひとりが違う」ことを楽しみ、多様な友達とつながりあうことで新しい発見をしたり、今までにない喜びを感じたりという経験ができるような、学級づくり・学校づくりをしていきたいと思えます。

さらに、「ゲームをする時間」や「SNSや動画視聴の時間」が全国に比べて長く、特に「平日にゲームをしない、または1時間未満」の割合が、全国で25%程度あるのに比べて本校では7%弱と、極端に少ないことがわかりました。学校でも、メディアリテラシーやネット依存防止の学習を進めていきたいと思えます。しかし、「スマホやPCなどの使い方についての家での約束」については、8割以上が守れていると回答をしていて、全国より10ポイント程度高い割合でした。ご家庭でも、ゲーム機なども含めて、視聴時間の長さについても「約束」として見直していただくとよいのではないのでしょうか。

# 10月後半～11月前半の行事予定

日	曜	行事予定	下校時刻		
			14:15	14:55	15:15
15	火	走って鍛えよう(～11/11)		1・2年	3～6年
16	水	たてわり会議		1・2年	3～6年
17	木	1年食育		1・2年	3～6年
18	金		1・2年		3～6年
19	土				
20	日				
21	月	クラブ活動	1～3年		4～6年
22	火	1年校外学習		1・2年	3～6年
23	水	国スポプレ大会 5・6年サッカー決勝観戦⑥		1・2年	3～6年
24	木	学習参観③④ 避難訓練(地震)⑥ 引き渡し訓練	15:05より順次メール配信 により地区別 (徒歩は15:00～)		
25	金	3年消防署見学	1・2年		3～6年
26	土				
27	日				
28	月	委員会活動	1～4年		5・6年
29	火			1・2年	3～6年
30	水	児童集会・代表委員会		1・2年	3～6年
31	木	持久走大会競技場練習 ノーマディア(家族団らん)デー		1・2年	3～6年
11月					
1	金	1・3・5年歯科保健指導 3年CAP研修10:55～	1・2年		3～6年
2	土				
3	日	文化の日			
4	月	振替休日			
5	火	2年校外学習		1・2年	3～6年
6	水	5年フローティングスクール 6年食育 2年親子活動④⑤		1・2年	3・4・6年
7	木	5年フローティングスクール 船中校区PTA合同研修会		1・2年	3・4・6年 (5年別下校)
8	金		1・2年		3～6年
9	土	PTA資源回収8:30～			
10	日	(PTA資源回収予備日)			
11	月		1～3年		4～6年
12	火	持久走大会		1・2年	3～6年
13	水	船岡・聖徳校区教員研修会	全校 13:20		
14	木	持久走大会予備日		1・2年	3～6年
15	金	4年やまのご学習、5年食育	1・2年		3～6年
16	土	青少年主張会(市役所3F:13:00)			
17	日				
18	月	クラブ活動	1～3年		4～6年
11/22		5年校外学習			
11/29		5年親子活動③④			
12/17～23		個別懇談			
12/24		2学期終業式			

## キラリ★夏チャレ! 報告会



子どもたちの主体性を育み、自ら挑戦してやり遂げる経験を通して達成感と自己肯定感を味わわせる目的で行った取組でしたが、予想以上に子どもたちは様々なチャレンジを楽しんで来たようでした。子どもたちのチャレンジのほんの一部ですが紹介します。

円周率を50ケタ覚える、縄跳び2重跳びを5回成功、外国人と話す、ブルーベリーでジャムを作る、バランスボールに180秒間足をつかずに乗る、お店に出てくるようなオムライスを作る、嫌いなピーマンを食べられるようになる、家のすべてのエアコンフィルターをピカピカにする、牛肉の部位の名前を覚える、3日間連続朝ごはん作り、テンセグリティ構造を作る、ボールでドリブルができるようになる、けん玉世界一周5連続成功、韓国語40個覚える、地藏盆で自作の金魚すくい屋さん開店、7月20日から毎日早寝早起きをする(チャレンジ成功だそうです。すごい!)などなど

他の子には大した事でなくても、その子にとって大きなチャレンジであることを知ったり、自分には到底できないと思うような他の子のチャレンジを驚きをもって聞いたり、報告会にはたくさんの「すごい!」がありました。

おうちの方のねぎらいの言葉の欄にも、温かいメッセージを書いていただき、それを得意満面で読んでいる様子が思い浮かぶようでした。ご協力ありがとうございました。

